

2011 春季フリースタイル部 技術・運営委員会 議事録

日 時 平成 23 年 6 月 11 日 (土) 11:00~16:15

場 所 味の素ナショナルトレーニングセンター 研修室④

出席者 林 辰男、鷺足 徹、高野 美鳥、池原 明、横山 敏弘、藪下 栄一、
荒瀬 裕基、越沼 進、長壁 宏、加藤 精一、永井 祐二、杉本 良平、
塩津 龍一、片岡 美穂、村山 英明、小林 正明、宮崎 潤

欠席者 鈴木 良和、中野銀次郎、田中千香子、中野 則之、太田 由美 (敬称略順不同)

1. 報告事項

(1) F I S 委員会関連

F I S フリースタイル委員会のスキークロス競技ワーキンググループは、本年度から日本人がいない。至急、人選を行ない S A J として推薦すべきである。(強化にも影響する)

(2) 公認関連

公認審判員合格者

ジャッジ検定会、A E : 美深スキー場、M O : 札幌市にて開催

A 級審判員合格者

M O ・ A E : 工藤千鶴子 (北海道)

M O : 藪下栄一 (北海道)、門間康成 (北海道)、星光憲 (北海道)、荒川義郎 (北海道)

A E : 佐竹仁 (北海道)、奥山貴弘 (北海道)、石川孝弘 (北海道)

B 級審判員

M O : 野瀬智子 (富山県)、長島康敬 (東京都)、原田孝 (北海道)、関克彦 (北海道)、
高越聡 (北海道)

(3) F I S 競技役員公認報告

F I S B レベル T D S X 永井祐二 (長野県) M O ・ A E = C

F I S C レベル T D M O ・ S X 村山英明 (新潟県)、M O ・ S X 四方英基 (岐阜県)、
S X 村野友紀 (東京都)、M O 岡田昭仁 (長野県)

F I S C レベル ジャッジ M O 川名 登 (埼玉県)、M O ・ H P 越山進一 (埼玉県)
M O 伊藤 創 (新潟県)、M O 齋藤康樹 (新潟県)、
M O 岡田昭仁 (長野県)

2. 審議事項

(1) F I S 関連

F I S フリースタイル委員会からの提案事項の検証と日本からの提案を行うためワーキンググループを設置する。

メンバー 林部長、田中 F I S 委員、加藤 F I S ルール & オフィシャル委員、横山委員、
藪下委員、小林セクレタリー

(2) 強化関連

① S X の海外競技会参加許可基準について

F I S 公認海外競技会への参加資格について「F I S ポイント 25 ポイント以上」とする内規を廃止し、S A J に連盟経由で申請される海外競技会参加許可申請書に基づき、強化委員会が許可判断を行う。

② 各種目のワールドカップ等の参加申請について

S A J 強化指定選手についてのみ、強化委員会においてワールドカップ参加申請を管理し、参加申請を行う。

(3) 運営関連

① 2012以降の全日本選手権開催場所について

年度	全日本選手権				全日本Jr
	MO&DM	AE	SX	WJ	
2012年	福島	北海道	長野	長野	北海道
2013年	長野	北海道	新潟	長野	長野・(兵庫)
2014年	富山	北海道	北海道	未定	北海道
2015年	北海道	北海道	未定	未定	新潟

② 2012年の全日本選手権大会モーグル種目は、2年前のフリースタイル部春季技術・運営委員会において決定したとおり、福島県で実施する。

今シーズンの全日本選手権大会が中止となったため、当該のスポンサー様等への何かしらの形でフォローすることも考えたい。

③ “SAJ公認フリースタイルスキー競技会参加規則(ポイントシステム)”について現在SAJデータベースに掲載されている規則を全面的に適用する。

ただし、2012年全日本選手権MO・DM参加資格について東日本大震災の影響により2011年全日本選手権は中止となったため、救済処置として同参加資格者は2012年全日本選手権MO・DMへの参加資格を有するものとする。

④ スキーハーフパイプ(HP)種目の公認審判員について

昨年決定したとおり、スキーハーフパイプ(HP)について公認審判員を設置する。

本件は内規により対応する。

イ. 平成22年6月11日において、下記条件を満たす者をスキーハーフパイプ(HP)種目のSAJ公認フリースタイル審判員の公認対象者とする。

a. スキーハーフパイプ(HP)種目のFIS公認国際A級及び国際B級の審判員は、スキーハーフパイプ(HP)種目についてSAJ公認フリースタイルA級審判員公認対象者とする。

b. スキーハーフパイプ(HP)種目のFIS公認国際C級審判員は、スキーハーフパイプ(HP)種目についてSAJ公認フリースタイルB級審判員公認対象者とする。

c. 平成20年度から平成22年度の3年間に、スキーハーフパイプ(HP)種目FIS公認国際A級審判員の研修を受け、SAJ強化本部フリースタイル部が実施した、公式行事において、審判を担当した者をスキーハーフパイプ(HP)種目についてSAJ公認フリースタイルB級審判員公認対象者とする。

ロ. スキーハーフパイプ(HP)種目について上記イ. a. b. c. の該当者は、SAJ競技本部フリースタイル部審判計算小委員会へ公認申請書を提出するものとし、SAJ競技本部フリースタイル部技術運営委員会において適当と認められたものはSAJ公認委員会へ公認審判員として上申するものとする。

平成22年6月11日現在において下記の条件を満たす者を公認対象者とする。

・ SAJ=HP公認審判員を設置するに当たり、FIS-HPの審判有資格者について、A及びBの保持者はSAJ=A級とする。

・ FIS=Cの保持者についてはSAJ=B級とする。

・ 平成20年度から平成22年度の3年間に、FIS A級審判員の研修会を受講し、SAJフリースタイル部の公式行事において審判を担当した者をSAJ=B級とする。

⑤ 公認審判員・公認TD研修会及び検定会

・ FISジャッジクリニック兼A級審判員研修会：11月4～6日 東京都

・ SAJ公認A級B級審判員研修会：11月・開催希望地・札幌市

・ 審判員検定会：2月AE・北海道、3月MO・福島

・ FISTDクリニック：10月22～23日：東京都

以上